

	鹿児島大学 医学系分野
学部・研究科名	医学部（第1年次：107 第2年次：10） ※医学科を記載。 医歯学総合研究科（M：10 D：50）
沿革・設置目的	島津藩医学校の流れを汲み、医学に関する教育・研究を行うことを目的に設置された鹿児島県立医学校、県立鹿児島医学専門学校、県立鹿児島医科大学、鹿児島県立大学医学部を経て、昭和30年（1955年）国立に移管され鹿児島大学医学部として設置された。 昭和24年（1949年） 県立鹿児島大学設置（同年鹿児島県立大学に改称） 昭和24年（1949年） （国立）鹿児島大学設置 昭和27年（1952年） 鹿児島県立大学医学部設置 <u>昭和30年（1955年） 鹿児島大学医学部設置（鹿児島県立大学から移管）</u> 昭和34年（1959年） 大学院医学研究科設置（平成15年（2003年）に医歯学総合研究科に改組） 平成16年（2004年） 国立大学法人に移行
強みや特色などの役割	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鹿児島大学の大学憲章等に基づき、自主自律と進取の精神を有し、豊かな人間性を備え地域に貢献し、研究心旺盛で国際的視野に立つ医師・医学研究者等の養成を積極的に推進する。 ○ 鹿児島県に多発する難治性慢性ウイルス疾患（ウイルス HTLV-1 による白血病 ATL や神経疾患 HAM など）の発症予防や治療法開発、先進医用ミニブタを用いた前臨床研究や再生医療研究、急性肝不全に対する新薬開発（HGF の医薬品化）等を始めとする研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。 ○ 鹿児島県の医師不足や偏在の解消や離島医療に貢献するため、国際島嶼医療学や離島へき地医療、地域医療支援に関する教育研究体制を構築し、県内外の地域医療を担う医師の養成を積極的に推進する。特に、離島を数多く有する鹿児島県特有のがん対策に対応するため、全人的医療が可能なチーム医療のリーダーとなる医師の養成モデルを構築し、地域の医療課題解決に貢献する。 ○ 県内唯一の医育機関及び特定機能病院としての取組や都道府県がん診

療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、肝疾患診療連携拠点病院等としての取組を通じて、鹿児島県における地域医療の中核的役割を担う。